大阪労働局発表令和5年4月27日

【照会先】

大阪労働局 労働基準部 健康課 (代表電話)06(6949)6500

'熱中症死亡ゼロを目指して"

5月から9月まで

「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」を実施

令和4年の府内の事業場における業務上での熱中症は、亡くなられた方が1人(前年2人)と前年と比較して減少したものの、休業4日以上の死傷者数は45人(前年27人)と大幅な増加となりました。災害事例の中には、体調不良の予兆があるのに、炎天下や倉庫内での作業を継続し、熱中症を発症したケースもあり、すぐに作業を離れさせ、休憩させるという「異常時の措置」がとられていなかった事案もみられました。

このため大阪労働局(局長 木原 亜紀生)では、職場における熱中症 予防対策の一層の推進を図るため、本年も5月から9月までの期間 「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を実施します。 (重点取組期間を7月に設定)

大阪労働局では、本キャンペーン期間中に次頁の取組を行い、熱中症 予防対策の徹底を図ります。

死傷者数発生推移



令和5年度の熱中症予防対策の取組について

(1) 専用リーフレットによる周知啓発(資料1参照)

暑さ指数(WBGT値)とは、気温に加え、湿度、風速、輻射(放射)熱を考慮して 労働環境において作業者が受ける暑熱環境による熱ストレスの評価を総合的に行う 指標です。

- (2) 事業者団体に対してキャンペーンを周知し、会員事業場への周知を要請
- (3) 熱中症予防対策セミナーの開催

開催日時: 5月25日(木)14:00~16:00

6月 6日(火)14:00~16:00

7月 7日(金)14:00~16:00

会場: 上記3日とも大阪市中央区石町2-5-3 エル・おおさか南館7階 キャンペーン期間中、暑さが本格化する6月~8月に合わせ、熱中症予防対策セミナー を開催します。同セミナーでは行政から熱中症対策の情報の提供、専門医からの具体的な 熱中症対策等の説明を行います。

日時の変更や中止となる場合があります。詳細は以下のURLからホームページを参照ください。

(4) ホームページでの周知広報

大阪労働局 新着情報・イベント情報

大阪産業保健総合支援センター 熱中症セミナー情報





厚生労働省 クールワークキャンペーン 実施要綱 厚生労働省 クールワークキャンペーン (職場における熱中症予防対策)





日本語他 1 0 か国語の熱中症対策の リーフレットも掲載されています

(5) キャンペーン期間中に実施するパトロール及び事業場指導等において、 熱中症予防対策に取り組むよう指導します。 資料1

職場で熱中症による死亡者ゼロを目指して



※一 熱中症を予防しよう!

熱中症による労働災害発生状況



大阪府内では、職場における熱中症の死亡災害が毎年のように発生しています。 令和4年は、死亡者数は1人になったも

令和4年は、死亡者数は1人になったものの、死傷者数は増加しました。

熱中症とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、めまい、こむらがえり等の症状や重症では死にいたることもあります。

大阪労働局では、労働災害防止団体などと連携して、職場における熱中症の予防のために

「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」

キャンペーン期間: 5月~9月 (重点取組期間7月)

を展開し、重点的な取組を進めています。

各事業場においては、事業者、労働者が協力して、**熱中症予防対策に取り組みましょう!** なお、「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」については、期間ごとの実施事項に重点的に取り組むことに加え、死亡者を出さないために、少しでも異変を感じたら病院へ運ぶまでは一人きりにしないといった適切な措置を講じるようお願いいたします。

異常時の措置

・熱中症は、短時間で容体が急変します。あらかじめ、近くの病院の場所を確認 しておき、異常を認めたときは**すぐに病院へ運ぶか、救急車を呼びましょう。**

WBGT値とは:暑さ指数と呼ばれ、気温に加え、湿度、風速、輻射熱を考慮した暑熱環境によるストレスの評価を行う暑さの指数で、熱中症警戒アラートなど熱中症予防に幅広く利用されてます。

事業場で実施すべき事項

熱 中 症 予 防 対 策

事業場では、期間ごとに次の事項に重点的に取り組んで下さい。確実に実施したか確認しましょう ☑ 準備期間(4月1日~4月30日) JIS 規格「JIS B 7922」に適合したWBGT指数計 WBGT値の把握の を準備しましょう。 準備 作業計画の策定な WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などが できるよう余裕を持った作業計画をたてましょう。 設備対策・休憩場 簡易な屋根の設置、通風または冷房設備や 所の確保の検討 ミストシャワーなどの設置により、WBGT値を 下げる方法を検討しましょう。 また、作業場所の近くに冷房を備えた休憩場所や 日陰などの涼しい休憩場所を確保しましょう。 服装などの検討 通気性の良い作業着を準備しておきましょう。身体を冷却 する機能をもつ服の着用も検討しましょう。 迷わず救急車 を呼びましょ う! 教育研修の実施 熱中症の防止対策について、教育を行いましょう。 労働衛生管理体制 衛生管理者などを中心に、事業場としての管理体制を整え、 必要なら熱中症予防管理者の選任も行いましょう。 の確立 体調不良時の休憩場所や状態の把握、悪化時に搬送する病院や 発症時・緊急時の ****** 措置の確認と周知 緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。

キャンペーン期間(5月1日~9月30日)

STEP

□WBGT値の把握

JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



STEP

П

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、 測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

WBGT値を下げるた 準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。 休憩場所には氷、冷たいおしぼり、 めの設備、休憩場所 シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。 の設置 準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用 しましょう。

通気性の良い服装等

作業時間の短縮 WBGT値が高いときは、単独作業を控え、WBGT値に 応じて作業の中止、こまめに休憩をとるなどの工夫をしましょう。

暑さに慣れるまでの間は十分に体態を取り、1週間程度かけて徐々に身体を 暑熱順化 **慣らし**ましょう。特に、**入職直後や夏季休暇明け**の方は注意が必要です!

のどが渇いていなくても定期的に水分・塩分を取りましょう。 水分・塩分の摂取

プレクーリング 休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。

□ 健康診断結果に ①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、

⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、

⑧下痛などがあると熱中症にかかりやすくなります。

医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。

前日はお酒の飲みすぎず、よく休みましょう。また、当日は 日常の健康管理 朝食をしっかり取るようにしましょう。 など

熱中症の具体的症状について理解し、熱中症に早く気付くこと ができるようにしましょう。

作業中の作業者の健 管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認 しましょう。特に、入職直後や夏季休暇明けの作業員に気を 康状態の確認 配りましょう。



基づく措置

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し 巡視などにより、次の事項を確認しましょう。

WBGT値の低減対策は実施されているか

WBGT値に応じた作業計画となっているか

各作業者の体調や署熱順化の状況に問題はないか

各作業者は水分や塩分をきちんと取っているか

作業の中止や中断をさせなくてよいか



異常時の措置

~少しでも異変を感じたら~

- いったん作業を離れ、休憩
- 病院へ運ぶ、または救急車 を呼ぶ
- 病院へ運ぶまでは一人きり にしない

重点取組期間(7月1日~7月31日)

- □ 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- □ 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。 □ 水分、塩分を積極的に取りましょう。
- □ 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- □ 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- □ 休憩中の状態の変化にも注意し、少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく 病院に搬送しましょう。





大阪労働局・各労働基準監督署

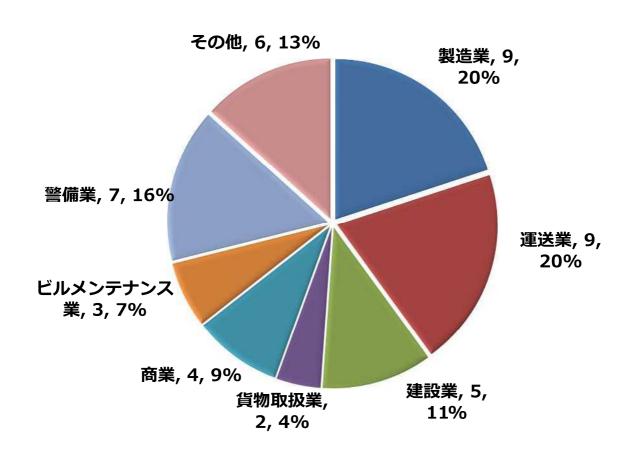
https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-roudoukyoku/

R 5.4

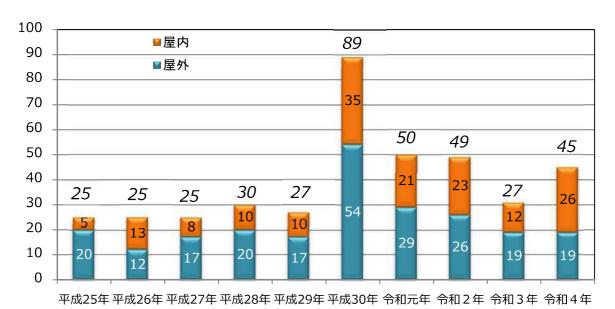
令和4年の府内の事業場における熱中症の発生状況

◆ 熱中症による休業4日以上の死傷者数は、前年より増加し45人であった。また、死亡者数は、前年より1人減少し1人であった。

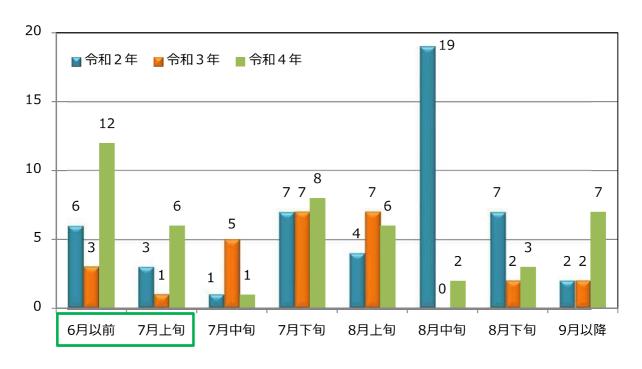




◇ 令和4年の死傷者数で、全体の約57%が屋内作業で発生している。



◇ 令和4年の発生時期は、全体の約40%が7月上旬までに発生している。



令和4年は観測史上初めて関東地方で6月に40℃を超える気温を観測する等、全国的に6月下旬に記録的な猛暑を観測したことから、暑さへの順化が十分できていない6月下旬から、7月以前上旬にかけての熱中症の発生が多くなり、6月27日から7月2日までの6日間で10件発生した。また、死亡災害も1件発生している。

体調不良者をすぐに病院に搬送するという「緊急時の措置」が適切にとられていなかったと考えられる事案も 9 件発生している(資料 3 の発生月欄に☆印を付したもの)。

全国の熱中症による死亡を含む休業4日以上の死傷者は805人、うち死亡者は28人となっている(令和4年1月13日現在速報値)。

令和4年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例(死亡)

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	最高 気温 ()	最高 WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
6月	警備業	22 時 台	60 代	男 性	28.0	24.6	警備巡回中に倒れていたところを、通行人 に発見され、救急搬送したもの。	屋外

発生月欄の 印は「緊急時の措置」が適切にとられていなかった事案

令和4年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例(休業4日以上)

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	気温	WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
5月	パン・菓子 製造業	19 時 台	50 代	女性	20.8	20.7	パンの焼成作業に従事中、トイレ内で倒れ ていたもの。	屋内
5月	その他の小 売業	14 時 台	20 代	男性	26.1	23.8	屋外の会社敷地内で納車準備作業中、手足 の痺れと呼吸困難となり、脱水状態であっ たため、救急搬送したもの。	屋外
6月	鉄骨・鉄筋 コンクリー ト造家屋建 築工事業	17 時 台	30 代	男性	27.5	17.4	現場作業終了後、片付作業を行っていた際、足がつったので、水分とタブレットをとり1時間ほど休憩し、回復したので帰宅したが、帰宅途中に様態が急変し、自ら救急車を呼んだもの。	屋外
6月	一般貨物自 動車運送業	13 時 台	70 代	男性	32.9	22.5	構内での荷降し作業を終了後、熱中症により意識意を失い転倒し、救急搬送されたもの。	屋内
6月	社会福祉施 設	15 時 台	40 代	男性	30.2	28.3	事務所内での業務に従事後、銀行へ行き、 戻った後に頭痛・吐き気の症状が出た。体 を冷やした後帰宅、その後症状が改善せず 4日後に病院で受診したもの。	屋内
6月	鉄骨・鉄筋 コンクリー ト造家屋建 築工事業	21 時 台	60 代	男性	29.4	25.2	現場作業に従事し、帰宅後、夜間に発熱。 翌日病院で受診したもの。	屋外
6月	ビルメンテ ナンス業	15 時 台	40 代	男性	30.0	27.2	地下通路で立哨警備中、気分が悪くなり嘔吐したため、応急処置を行ったが回復せず、救急搬送したもの。	屋内
6 月	建築設備工 事業	16 時 台	60 代	男 性	30.4	26.2	工事実施の近隣 P R 中に、頭痛・眩暈がしたため業務を中止し休憩させたが回復せず、病院に連れて行ったもの。	屋外
6 月	その他の金 属製品製造 業	13 時 台	60 代	男性	30.6	28.8	金属加工を行う事業場において、午後の作業を再開したところ、高温のため作業中に急にふらつき、同僚が病院に連れて行ったもの。	屋内

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	気温 ()	WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
6月	陸上貨物取 扱業	21 時 台	70 代	男 性	28.1	24.8	倉庫内で仕分け作業中、頭痛・吐き気・腕 の痺れの症状があったため、病院を受診し たもの。	屋内
6月	その他の事業 - その他	12 時 台	60 代	男性	33.4	27.9	車庫内で清掃作業後、更衣室横に清掃用具 を置いた後、立ち上がれなくなり、病院に 救急搬送したもの。	屋内
7 月	一般貨物自 動車運送業	15 時 台	50 代	男性	37.6	26.6	トラックで住宅地内をドライバーの横に乗り配達業務に従事中、頭がくらくらして、 事務所に連れ帰って休憩させていたが回復 せず、病院に救急搬送したもの。	屋外
7月	各種商品卸 売業	11 時 台	40 代	女性	34.4	30.4	バックヤードで在庫整理作業中、暑さで眩暈・頭痛を生じ気分が悪くなったため、病院に救急搬送したもの。	屋内
7月	その他の事業 - その他	9 時台	30 代	女性	31.4	30.0	部品袋詰作業員が作業場で座り込んでいたため、休憩させ帰宅させた。翌日も出勤してきて作業を行っていたが、約30分後に座り込んだため、休憩させ帰宅させた。その後病院を受診し熱中症と診断されたもの。	屋内
7月	旅館業	11 時 台	50 代	女性	32.9	30.0	備品保管倉庫で在庫品の補充等作業中、気 分不良・頭痛呼吸困難、脱力感があり、病 院に救急搬送したもの。	屋内
7 月	ビルメンテ ナンス業	5 時台	50 代	男性	26.8	29.0	朝礼中に突然意識を失い倒れ、顎を骨折、 病院に救急搬送したもの。	屋内
7月	その他の小 売業	15 時 台	20 代	男性	30.2	30.8	工場構内の通気性の悪い暑いピット内での作業中、水分補給の休憩を挟んで作業を開始して約1時間後、足の痺れ・歩行困難となり、構内診療所に運び応急処置の後、病院に救急搬送したもの。	屋内
7 月	染色整理業	16 時 台	60 代	男性	29.7	30.1	熱湯を使用しての染色作業を終え、会社の 隣の店舗でお茶を購入中に突然気を失い倒 れたため、病院に救急搬送したもの。	屋内
7月	一般貨物自 動車運送業	8 時台	40 代	男性	26.6	30.8	炎天下での荷降し作業中、吐き気がし、手 がつり出したが、そのまま作業を続けてい て、熱中症になったもの。	屋外
7月	陸上貨物取 扱業	14 時 台	70 代	男性	31.0	31.1	倉庫内で荷の積み替え作業中頭痛・眩暈の 症状が出たため、作業終了後病院を受診、 熱中症と診断されたもの。	屋内
7 月	機械(精密 機械を除 く)器具製 造業	13 時 台	30 代	男性	31.0	31.1	気温の高い環境で研磨機を使用しての作業中、吐き気、頭痛・手足の痺れが出たため、速やかに早退し病院を受診したもの。	屋内

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	気温 ()	WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
7月	一般貨物自 動車運送業	10 時 台	40 代	男 性	32.4	30.9	荷主先倉庫内で作業中、体調が悪くなり、 冷房の効いた部屋で休憩していたが回復せ ず、病院に救急搬送したもの。	屋内
7 月	機械(精密 機械を除 く)器具製 造業	10 時 台	40 代	女性	32.4	30.9	工場建屋内の気温の高い環境の中で機械加工を行っていた際、頭痛・吐き気・倦怠感を感じたので、早退したが、熱中症となったもの。	屋内
7 月	一般貨物自 動車運送業	4 時台	40 代	男 性	27.5	31.9	トラックドライバーが自身で荷積み後、走 行していたところ、熱中症となったもの。	屋外
7月	機械(精密 機械を除 く)器具製 造業	13 時 台	30 代	女性	33.1	31.7	午前中テント倉庫で作業に従事、体調不良を感じたが昼食後も作業を続けて、フォークリフトによる運搬作業を行っていた際に気分が悪くなり、その場に座り込んだ。少し休憩させたが、手足にしびれを感じたことから、病院に救急搬送したもの。	屋外
7 月	警備業	9 時台	50 代	男性	30.4	31.7	現場で重機の誘導業務に従事後水分補給の ため持ち場を離れた際、意識がもうろうと なり倒れ、病院に救急搬送したもの。	屋外
8月	ゴム製品製 造業	9 時台	40 代	男性	32.5	31.7	機械(押し出し機)に材料を投入中、眩暈があり、クーラーのあたる場所で座って休憩、塩飴・スポーツドリンクを摂取するも回復せず、嘔吐の症状もあったことから、病院に受診したもの。	屋内
8月	一般貨物自 動車運送業	21 時 台	50 代	男性	30.6	31.7	朝から体調が思わしくなかったが出勤、夜 間の配達業務に従事中気分が悪くなり嘔吐 し動けなくなったもの。	屋外
8月	警備業	16 時 台	40 代	男性	33.2	31.7	ドラッグストアの警備を行っていた際に、 熱中症により倒れ、一般の方に救急要請さ れ病院に搬送されたもの。	屋外
8月	鉄道・軌道 業	15 時 台	40 代	男性	33.8	31.7	出勤前、僅かな頭痛があったものの、車掌として乗務、途中駅で頭痛や痺れがひどくなるものの、終着駅まで乗務。乗務交代を終えた後両手足が痙攣、病院に救急搬送したもの。	屋内
8月	警備業	9 時台	70 代	男性	31.5	31.7	工事現場の交通誘導業務に従事中、意識が もうろうとなったため、病院に救急搬送し たもの。	屋外
8月	製材業	7 時台	30 代	男 性	29.7	31.7	始業後、すぐに頭痛・吐き気・倦怠感の症 状が現れ、昼過ぎに早退して帰宅。翌日病 院を受診し、熱中症と診断されたもの。	屋内

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	気温 ()	WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
8月	一般貨物自 動車運送業	15 時 台	40 代	男 性	33.8	31.7	倉庫で商品の仕分け作業後、眩暈・吐き 気・頭痛があり、嘔吐したため、病院に救 急搬送したもの。	屋内
8月	新聞配達業	16 時 台	50 代	男 性	34.4	30.5	夕刊の新聞配達中、道端で倒れ、一般の方 に発見され、病院に救急搬送されたもの。	屋外
8月	その他の事業 - その他	15 時 台	60 代	男性	32.6	29.9	資材置場で資材を片付中、倉庫内の気温が 高かったため、熱中症とおもわれる症状で 倒れたもの。当日は自宅で休養するも翌日 も体調が悪く、病院を受診して熱中症と診 断されたもの。	屋内
8月	非鉄金属精 錬・圧延業	14 時 台	50 代	男 性	33.2	29.9	圧延機のカバーの調整作業中、脱力感を覚え、立ち上がることができなくなり、そのまま床面に倒れ込み動けなくなったもの。	屋内
8月	警備業	8 時台	60 代	男 性	27.3	29.9	倉庫出口の門で車の誘導業務中、熱中症に より転倒し、後頭部を打撲したもの。	屋外
9 月	警備業	8 時台	50 代	男 性	30.6	29.9	工事現場の交通誘導員としての業務開始前 の朝礼時にふらついた後座り込み立てなく なったため、救急車にて病院に搬送したも の。	屋外
9 月	倉庫業	14 時 台	70 代	男 性	28.5	33.0	倉庫内での段ボール箱への箱詰作業の業務中、水分補給休憩の後に作業に戻ろうとした際、体がいうことを聞かなくなりそのまま全身硬直し立てなくなったため、救急車にて病院に搬送したもの。	屋内
9 月	鉄道・軌道 業	14 時 台	50 代	男 性	33.7	33.0	午前中に約2時間清掃作業に従事し、勤務 終了後帰宅し自宅で横になっていたとこ ろ、意識がもうろうとし痙攣・嘔吐の症状 が出たため、救急車にて病院に搬送したも の。	屋内
9月	鉄骨・鉄筋 コンクリー ト造家屋建 築工事業	15 時 台	30 代	男性	32.9	31.8	店舗の改装工事現場において作業中、体調がよくなかったがそのまま作業を続行した 後帰宅、夕食を食べようとしたところ意識 を失い、救急車にて病院に搬送したもの。	屋外
10 月	警備業	10 時 台	40 代	男性	20.8	25.0	現場入口で交通誘導中、熱中症になり、立ち眩みにより転倒し顔面ほかを打撲したもの。	屋外
10 月	その他の事業 - その他	13 時 台	40 代	男性	29.7	26.2	駐輪場にて業務に従事中、突然寒気、気分が悪くなり、トイレに行く途中で嘔吐し体がふらつき転倒したもの。	屋外

発生月	業種	発生 時刻	年齢	性別	気温	WBGT 値 ()	発生状況の概要	屋内外
月	その他の土 木工事業	15 時 台	70 代	男性	-	-	作業に従事中、少しふらつきがあったので 水分補給のため車に向かって歩いていた際 に意識を失い、そのまま路上に倒れ負傷し た。その後すぐに病院を受診、熱中症と診 断されたもの。	屋外

WBGT 値については環境省 熱中症予防情報サイトより